

「グラウンドスケープデザインワークショップ」の概要

東京大学 正会員 ○中井 祐

1. グラウンドスケープデザインワークショップ(GSDW)について

(1) グラウンドスケープデザインワークショップ(GSDW)の趣旨

グラウンドスケープデザインワークショップ(以下 GSDW)は、土木・建築・都市計画・ランドスケープ(造園)・デザイン(ID)・歴史を中心に、分野間のコラボレーションによる総合的な空間デザインを担える人材の育成を目的として、上記分野を学ぶ全国の学生を対象に、2004 年以来毎年開催されているワークショップ形式の設計演習プログラムである。主催は NPO 法人 GS デザイン会議(代表：篠原修，内藤廣)。

(2) GSDW 誕生の経緯と開催実績

2003 年 5 月、東京青山にて土木デザインの展覧会「GROUNDSCAPE 展—篠原修とエンジニア・アーキテクトたちの軌跡—」が開催された。出展された巨大な模型は、全国各地から集結した土木、建築、都市計画などを学ぶ 150 名余りの学生によって製作された。これを機会に、筆者ら展覧会主催者が中心となり、専門分野を超えた学生対象の設計演習の企画に着手、2004 年 9 月 12～18 日に第 1 回 GSDW が開催された(会場：東京大学社会基盤学科設計演習室)。以来、9 月初～中旬の約一週間を用いて毎年開催している。

2. GSDW の内容とプログラムの特徴

(1) テーマ、対象、講師

テーマと設計対象地は、総合的・分野横断的な検討に適し、かつ公共的な空間のありかたについて思考できる対象であることを前提に、現地視察が可能な都内もしくは近郊の具体の場所を設定している。

- ・2004～2006 東京駅丸の内口駅前広場、行幸通り、皇居前広場(一部)、新丸ビルのトータルデザイン
- ・2007～2008 都市の歴史的原点としての場所性を考慮した横浜・象の鼻地区の空間デザイン
- ・2009～2011 近代化遺産のある郊外都市・牛久のまちづくりのための空間デザイン
- ・2012 新陳代謝とアイデンティティを考慮した都市空間デザイン～銀座 6 丁目街区と中央通り～

講師は、課題に応じて土木・建築・都市計画・造園・デザイン・歴史の各分野から招いているが、現場の第一線で活躍中の実践家(もしくは設計実務経験を有する大学人)に依頼することを原則としている(表 1)。

(2) 分野混成チームによるワークショップ形式

全国の大学に広く公募して参加者を募っており、毎年 50 名前後の応募がある。応募の際に提出される A4 一枚のポートフォリオを用いて、事前に事務局で、4 名からなるチームを編成しつつ参加者数を 32～40 名に絞り込む。チーム編成にあたっては、可能な限り専門分野、学年、男女をミックスするよう留意している。参加者はワークショップ全期間を通じて、このチーム単位で議論、検討、発表等の共同作業を行う。なおこれまでの 9 回を通じて、全国 49 大学、108 の学科・専攻から、計 324 名の参加を得ている(表 2)。

(3) 学生主体の運営

GSDW は、前年の修了生の有志で構成される事務局、すなわち学生によって運営されている。また、GSDW 修了生の多くは主催団体 GS デザイン会議の下部組織 GS デザインユースの会員となり、修了後もそこでの活動を通じてネットワークを維持し続けている。参加者の人間関係の持続が、GSDW の大きな特徴である。

(4) チューター制

第 2 回(2005 年)以降、各チームに一人ずつ、チーム専属の相談員としてチューターを置いている。チューターは、主に土木・建築・都市計画のアトリエ系事務所の 30 前後の若手スタッフ、実務経験のある大学の助

キーワード デザイン教育、空間のトータリティ、コラボレーション

連絡先 〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 TEL 03-5841-6134

表 1 講師陣一覧

分野	開催年								
	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
土木	篠原 修 小野寺康 西村 浩 中井 祐 福井恒明	篠原 修 小野寺康 西村 浩 中井 祐 福井恒明	篠原 修 小野寺康 西村 浩 中井 祐	篠原 修 小野寺康 西村 浩 中井 祐	篠原 修 小野寺康 西村 浩 中井 祐	篠原 修 小野寺康 西村 浩 中井 祐	篠原 修 小野寺康 西村 浩 中井 祐	篠原 修 小野寺康 西村 浩 中井 祐	篠原 修 小野寺康 西村 浩 中井 祐
建築	内藤 廣	内藤 廣	内藤 廣 栗生 明	内藤 廣 北山 恒 玉田 源	内藤 廣 山本理顕 西沢立衛 玉田 源	内藤 廣 西沢立衛 熊倉洋介	内藤 廣 西沢立衛 熊倉洋介	内藤 廣 塚本由晴 乾久美子	内藤 廣 千葉 学 乾久美子
都市	加藤 源	加藤 源	加藤 源 小出和郎	加藤 源 国吉直行	加藤 源 国吉直行	川原 晋	川原 晋	川原 晋	羽藤英二
LD			樋渡達也	樋渡達也	樋渡達也 長谷川浩巳	山崎 亮	山崎 亮	山崎 亮	
ID	南雲勝志	南雲勝志	南雲勝志	南雲勝志	南雲勝志	南雲勝志	南雲勝志		
歴史	矢野和之	鈴木博之	鈴木博之	陣内秀信		後藤 治	後藤 治	後藤 治	
演習 課題	行幸通り・東京駅前広場・ 沿道建築のトータルデザイン			横浜象の鼻地区の 空間デザイン		郊外におけるデザインの可能性： 近代化遺産をいかした牛久のまちづくり 提案			都市の新陳代謝を デザインする： 銀座の街区デザイン

教がその任にあたる。なおこの数年で、初期の GSDW 修了生が過半のチューターを務めるようになっている。

(5) 成果は何らかの形で公表

最終講評後、各チームは一ヶ月ほどかけて最終成果をパネルにまとめ、設計対象地に関連のあるギャラリー、コンコース等で展示を行う。2009～11 年は牛久市民の前で発表し、市民投票による審査を受けた。

3. 教育効果について

ほとんどの参加者が経験するのは、チーム内の議論の場で「言葉が通じない」ことである。土木の学生は手が動かず、建築の学生は提案が理解されず、都市計画の学生は場をまとめられない。デザインが上手い学生がいれば一致団結できるわけでもなく、ときにチームは瓦解して、不本意な成果に悔しい思いをする。計画や設計という行為の重要な核心が他者とのコミュニケーションにあること、それが成立するためには専門分野のなかに閉じた思考(＝言葉)では通用しないということは、確実に伝わっていると考えている。

表 2 参加者の概況

分野	開催年									合計	参加者の所属大学・内訳
	04	05	06	07	08	09	10	11	12		
土木系	19	27	26	20	16	26	18	15	18	185	東大 49, 早大 23, 九大・熊本大 14, 京大 13, 東北大 10, 高知工科大 9, 日大・山梨大 7, 埼玉大・国士舘大 5, 芝浦工大・岐阜大 4, 横浜国大・大阪大・九州工大 3, 法政大・名古屋工大・福岡大 2, 首都大学東京・東京理科大・東京電機大・名大・徳島大・愛媛大 1
建築系	12	6	9	16	10	12	11	12	10	98	東大 17, 早大・慶大 6, 京大・岡山理科大 5, 横浜国大・東京理科大・関西大・設計事務所 4, 首都大学東京・日本大学・京都工繊大・名古屋工大 3, 設計事務所勤務 3, 東北大・千葉大・東京芸大・明大・東京都市大・関東学院大・東海大・武蔵野美術大・立命館大 2, 前橋工大・法政大・工学院大・芝浦工大・日本女子大・名大・福井大・大阪市立大・武庫川女子大・九大・西日本工大・北九州市立大・鹿児島大 1
都市系	2		2	1	1	2	3	3	2	16	東大 9, 東工大 6, 大阪市立大 1
造園系	1	1	3	1	4			4	2	16	千葉大 9, 東大 4, 東京農大・明大・京都造形芸術大 1
ID 他	2	2		2	1			2		9	東京芸大 5, 慶大 2, 徳島大・九大 1
合計	36	36	40	40	32	40	32	36	32	324	のべ 49 大学, 108 学科・専攻

表 3 プログラムの例 (2012 年)

時	前日	初日	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目	最終日
12		ガイダンス							
		講義 1 (篠原)							
		講義 2 (内藤)		講義 3 (乾)	中間発表				
15	現地見学 (自由参加)			エスキス (乾・羽藤)	(全講師)				
		(作業)	(作業)			(作業)	(作業)	(終日作業)	最終発表 (全講師)
18				(作業)	(作業)	エスキス (千葉・小野寺)	エスキス (西村・中井)		
		コンセプト発表 (班ごと)	チューター タイム		チューター タイム	チューター タイム			結果発表 総評 打ち上げ
21	懇親会								